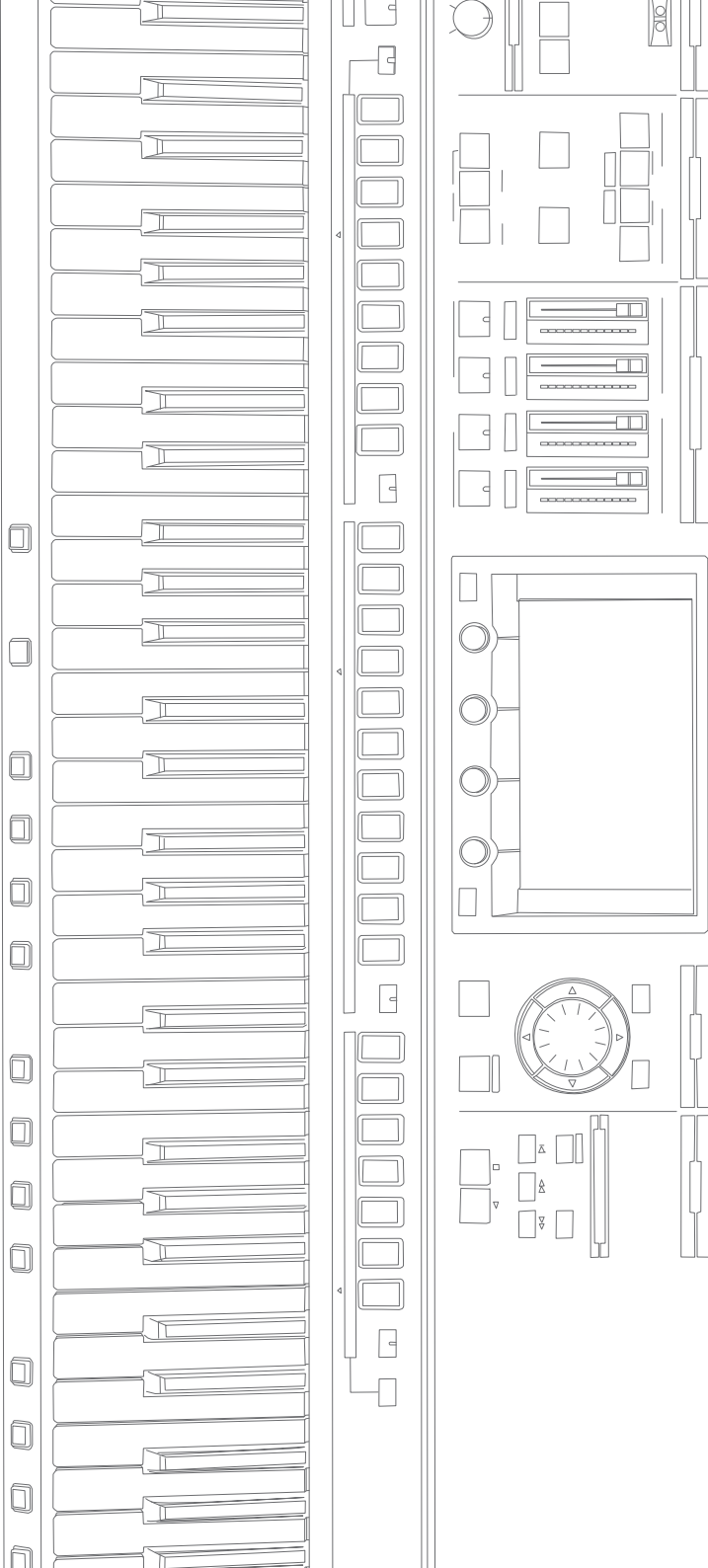


ROLAND REPORT

第**39**期 報告書

2010年4月1日 ▶ 2011年3月31日



Better Life with Music

暮らしの中にもっと音楽を。
ローランドは、楽器を演奏する楽しみ、より多くの喜びをご提案しています。

歌っている人、楽器を演奏している人、コンサートで音楽を聴いている人・・・。
それらの人々の表情には笑顔があふれ、本当に楽しそうです。
このような生活に潤いを与える音楽の楽しみや喜びをより多くの人と分かち合いたい。
そのためにローランドはさまざまな場所や機会をご提供しています。

ローランドに
出会える場所

1 ショップで

商品の魅力を直接お客様にお伝えするショップ・イン・ショップ

提携販売店様の店内につくられたローランド専用のコーナーでは、理想的にセットアップされた環境の中で、ローランド製品に心ゆくまで触れていただけます。また専門スタッフが、お客様のニーズに合わせた提案やアドバイス、ご購入後のサポートまで幅広く対応します。日本国内はもとより、米国、欧州、新興国など、全世界で500拠点にまで拡大しています。



ローランド・プラネット
Roland Planet

⇒ <http://roland-planet.jp/>

シンセサイザーや電子ドラム、コンピュータ・ミュージックなど、デジタル楽器を中心に、全国主要都市で展開しています。



ローランド・プラネット・エクスプレス
Roland Planet Express

⇒ <http://roland-planet.jp/x/>

Roland Planetをよりコンパクトに凝縮し、全国各地で販売店様の状況に合わせてフレキシブルに展開しています。



ローランド・フォレスタ
Roland Foresta

⇒ <http://roland-foresta.jp/>

デジタルピアノを中心としたホーム市場向け製品を、上質なりビングをイメージしたスペースに、幅広く展示しています。

2 ステージで

楽器を通じて表現する喜びと感動を多くの方々とともに体感

ローランドならではの電子楽器を使ったコンテストやコンサートを世界各地で開催。アマチュアからプロの方々までお楽しみいただける、さまざまなステージをご提供しています。



3 スクールで

電子楽器を活用したクオリティーの高い音楽教室を目指して

全国各地の特約店教室と緊密なネットワークを築き、ローランド独自の電子楽器を活用した教育コンセプト「ism(イズム)」をもとに、より楽しく、より効果の高い音楽レッスンを行っています。



4 Webで

製品の楽しみ方や活用ノウハウをインターネットで提供

ローランドのホームページでは製品の特徴や使いこなし方、機能などを音と映像でご紹介しています。またいつでも好きな時に、電子楽器の活用ノウハウを学べる「ローランド・オンライン・セミナー」も開講中です。



企業スローガン

創造の喜びを世界にひろめよう
BIGGESTよりBESTになろう
共感を呼ぶ企業にしよう

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。また、この度の東日本大震災により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心より祈念致します。2011年3月期の業績概況と今後の見通しについて、ご報告させていただきます。

代表取締役社長 田中英一



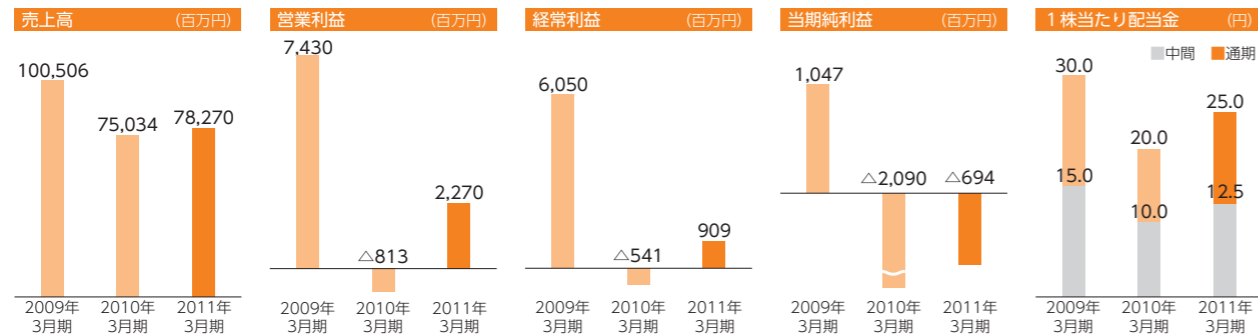
2011年3月期連結業績

当連結会計年度の当社グループを取り巻く環境は、日本国内と北米では景気後退が底を打ち、個人消費は緩やかな回復基調にありました。欧州では各国の財政状態や経済状況に違いはあったものの全体としては先

行き不透明な状況で推移し、また中国、ブラジルを中心とした新興国では、持続的な経済成長により需要が拡大しました。

このような中、当社グループは「創造の喜び」を世

● 連結財務ハイライト



界にひろめるために、電子楽器事業では、「Better Life with Music」を、コンピュータ周辺機器事業では「イメージをカタチに」をビジョンとして掲げ、市場ニーズに合った新製品の市場投入やさまざまなマーケティング活動により、需要喚起の取り組みに注力致しました。結果、前期と比較して増収、増益となりましたが、円高による為替差損の影響が大きく、大変遺憾ながら2期連続の当期純損失となりました。

配当金につきましては、当期純損失となったものの、前期と比較して赤字幅は大きく縮小したため、期初の予想どおり、1株につき12円50銭(中間配当金を含めて年間配当金は1株につき25円)とさせていただきます。

■ 2012年3月期連結業績予想

2011年3月に発生しました東日本大震災により、当社グループでは人的及び物的な直接被害はありませんでしたが、震災直後から部品の調達状況が悪化し、2012年3月期上半期の生産に影響が発生する見通しです。

これにより電子楽器事業では、中国、中南米等の新興国を中心に堅調な需要が見込まれるものの、部品調達に起因する製品の供給不足により、売上高はほぼ前期並みの460億円、営業利益は生産減少による工場稼働率の悪化等により18億円の赤字を予想しています。

コンピュータ周辺機器事業は通期では震災の影響は軽微であり、売上高は前期比5%増収の340億円、営業利益は販売費及び一般管理費の増加により、前期比8%減益の22億円を予想しています。

結果、連結の売上高は前期比2%増収の800億円、営業利益は前期比82%減益の4億円となり、大変遺憾ながら1億円の経常損失、5億円の当期純損失を予想して

おります。

尚、2012年3月期の配当につきましては、利益還元の基本方針に基づいて安定配当を重視し、1株につき20円を予定しています。

● 2012年3月期連結業績予想

(単位：億円)

	2012年3月期		2011年3月期
	予想	対前期比	実績
売上高	800	+17 +2%	782
電子楽器事業	460	+1 +0%	458
コンピュータ周辺機器事業	340	+15 +5%	324
営業利益	4	△18 △82%	22
電子楽器事業	△18	△16 -	△1
コンピュータ周辺機器事業	22	△1 △8%	23
経常利益	△1	△10 -	9
当期純利益	△5	+1 -	△6
為替レート	US\$ 80	△8 △9%	88
	EURO 115	△1 △1%	116

※金額は億円未満を切り捨て表示しています。

■ 電子楽器事業の経営方針

現在当社では、経営ビジョンである「Better Life with Music」の実現に向け、「モノづくり」と「コトづくり」に取り組んでいます。



これまで当社は、シンセサイザーをはじめ、電子ピアノや電子ドラムなど、多くの革新的な製品を開発してきました。この当社の「モノづくり」の原動力となるのは、音源チップに代表されるコア・テクノロジーです。このコア・テクノロジーを基に独創的な製品を開発していくことが、競争優位の源となります。また、製品開発の段階では、環境にも配慮しながら、実際に演奏される方の視点で「楽器としての完成度」を追求してまいります。



独自の音源技術により、従来にない自然で豊かな演奏表現を実現したライブ・シンセサイザー JUPITER-80

「モノづくり」によって生み出された楽器を使って、演奏する楽しみを訴求していく「コトづくり」は、①コンテスト(=お客様に発表の場を提供)、②イベント(=コンサートや店頭イベントの開催)、③トレーニング(=販売店様向け製品研修)、④マーチャダイジング(=ショップ・イン・ショップを中心とした流通展開)、⑤エデュケーション(=電子楽器を活用した音楽教育の展開)、⑥カスタマーサポート(お客様への各種対応やWEBによる情報提供)の6つの柱を軸に取り組みを強化してまいります。



地域別の展開では、日本を戦略の供給基地と位置づけ、アメリカ、ヨーロッパ諸国、日本などの先進国や、近年発展の目覚ましい中国、ブラジル、ロシアなどの新興国において、地域事情に応じた戦略を展開してまいります。

株主の皆様には、2期連続の赤字となり、大変ご心配をおかけしております。また、今期も震災の影響により、厳しい経営環境となりますが、ローランドは、経営理念である3つのスローガン「創造・BEST・共感」を原理原則とし、「Better Life with Music」の実現を、真摯に追求することで今後も社会への貢献を果たしてまいります。

引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



ローランド エスジー株式会社を ローランド株式会社に統合

2011年4月1日付で、業務用音響及び映像機器を開発・製造する子会社をローランド株式会社に経営統合しました。



当社が新たな成長分野と位置づけるこれらの分野での経営統合により、ローランドグループの経営資源をこれまで以上に積極的に投入し、成長を加速するとともに、電子楽器の開発、製造との相乗効果も図り、事業の拡大を目指します。



ドラマーのためのソーシャル・ツール 「V-Drums Friend Jam」公開

ローランドの電子ドラム「Vドラム」ユーザー向けに、世界中の仲間と交流しながら、楽しくドラム練習できるソーシャル・ツールを公開しました。
(URL: <http://www.roland.co.jp/V-Drums/FriendJam/>)

「V-Drums Friend Jam」をインストールしたパソコンにVドラムを接続し、好きなジャンルの曲をダウンロードして演奏すると、その演奏を採点、得点を世界ランキングで表示します。ツイッターにも連動しているので、練習の成果をつぶやくなど、世界中のVドラムユーザーと交流しながら、演奏をより一層楽しむことができます。



「第2回エレクトロニクス・アーツ浜松賞」に、 オルガニスト ヘクター・オリベラ氏とアコーディオニスト セルジオ・スカッピニーニ氏を選出

電子技術を応用した芸術文化の振興と普及に努める公益財団法人ローランド芸術文化振興財団は、電子楽器の発展と普及に貢献した芸術家を顕彰する「エレクトロニクス・アーツ浜松賞」の第2回受賞者として、オルガニストのヘクター・オリベラ氏とアコーディオニストのセルジオ・スカッピニーニ氏を選出しました。

2010年11月22日にホテルオークラ東京で開催した贈呈式・祝賀パーティーには150名の方々が来場し、優れた演奏により世界で活躍するお二人の功績を称えました。



左より、梯 郁太郎(公益財団法人ローランド芸術文化振興財団理事長)、ヘクター・オリベラ氏(オルガニスト)、セルジオ・スカッピニーニ氏(アコーディオニスト)

V-Piano GRAND

音楽家たちが慣れ親しんだグランドピアノの豊かな世界はそのままに、
V-Piano Grand ならではの新たなピアノの表現力がひろがります。



V-Piano Grandは、ローランド最高峰のピアノ・サウンド「V-Piano音源」と、独自の立体音響技術を駆使した新開発のサウンド・システムを搭載し、高い表現力と豊かな響きをお楽しみいただけるローランドピアノ・デジタルのフラッグシップ・モデルです。

「V-Piano音源」は、従来のサンプリング方式の音源とは異なり、ハンマーが弦を叩いて駒からフレーム、そして響板へと音が広がるプロセスを再現し、内部に仮想的なピアノを構築します。ピアノ本来のリアルな音色から、アコースティック・ピアノでは物理的制約により実現できなかった先進的なピアノ音色まで表現できます。

新開発のサウンド・システムは、さまざまなピアノ音の成分を、ピアノ本体の最適なエリアで再生させ、奥行きと広がりのある豊かなピアノ・サウンドを響かせます。例えば、ハンマーが弦を叩く際に生じるノイズ成分は、演奏者により近い位置に配置し、その後方に弦の振動成分、さらにその後方にさまざまな共鳴成分や響板の響きなどを配置することで、ピアノ全体から音が響いているような豊かな音場をつくり上げます。

ローランドのデジタルピアノの技術の粋を集めたV-Piano Grandは、クラシック・コンサートをはじめ、あらゆる音楽シーンで幅広くお楽しみいただけます。

シンセサイザー JUPITER-80

独自の「ビヘイビアー・モデリング・テクノロジー」により、弦楽器など、アコースティック楽器の奏法によって異なる音色や楽器独特の振る舞いまでも表現。従来にない自然で豊かな演奏表現をライブ・パフォーマンスで実現するローランド・シンセサイザーのフラッグシップ・モデル



ギター・シンセサイザー GR-55

シンセ・サウンドとギター・モデリングを融合させ、ギター1本でピアノ、オルガン、弦・管楽器など900種類以上の多彩なサウンドを演奏できるギター・シンセサイザー



電子オルガン ATELIER Combo AT-350C

伝統のジャズ・オルガン・サウンドや多彩なオーケストラサウンドを表現でき、2段の手鍵盤を装備。重さ25kgと軽量・コンパクトでライブ演奏に最適な電子オルガン



V ドラム TD-9KX2-S

特殊素材で演奏性が向上した新開発のキックパッドや、クラッシュ/ライド用に専用設計したシンバル、可動式のハイハットの採用により、部屋でも本格的な演奏を楽しめる電子ドラム



デジタル・レコーダー MICRO BR BR-80

ギターとヘッドフォンを接続するだけで、お好みの曲に合わせた練習から、高音質のステレオ録音、本格的な曲作りまで1台で行える、手のひらサイズのデジタル・レコーダー

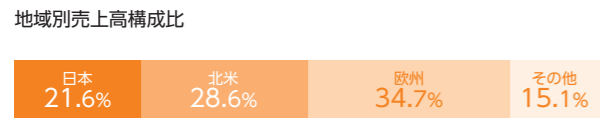
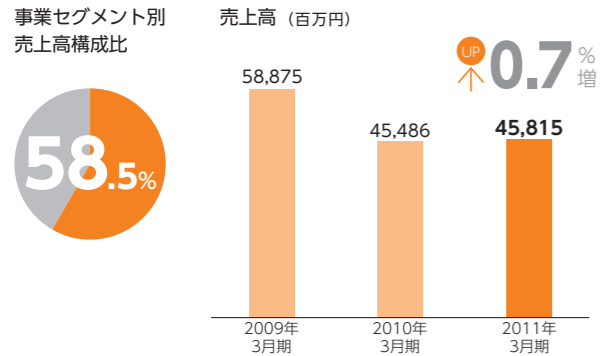


AV ミキサー&レコーダー VR-5

映像と音声の収録や配信に必要な機能を1台に集約。カメラ、マイクをつなぎ、USB端子でパソコンに接続するだけで、インターネットでライブ配信できるAVミキサー&レコーダー



電子楽器事業

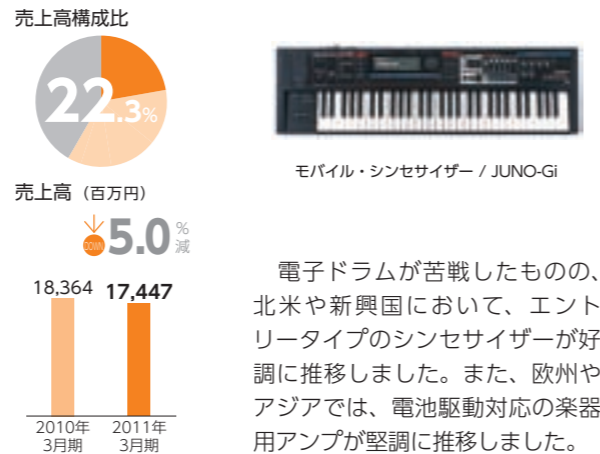


新製品を多数、市場に投入するとともに、コンテストや製品イベント等によって幅広い顧客層への直接訴求に努めることで、新規の需要喚起に取り組みました。また、グローバルでのショップ・イン・ショップ展開の推進や、教育分野への用途提案など、販売・流通網の拡充にも引き続き注力しました。

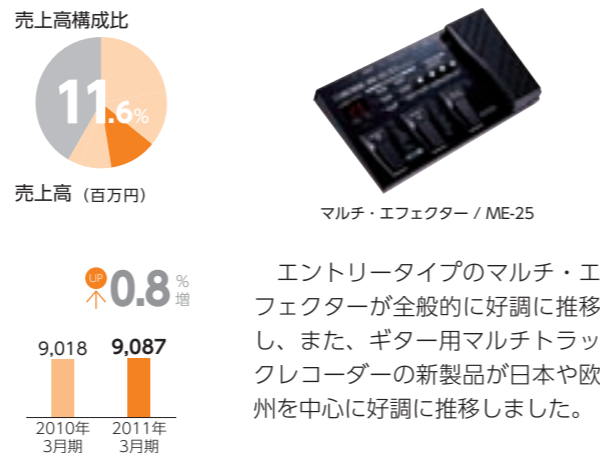
製品別では、電子ドラムの販売が前期を下回ったものの、新音源により表現力を高めた電子ピアノの販売が年間を通して好調に推移しました。また成長分野として注力している業務用音響及び映像機器も販売が大きく伸びました。

地域別では、日・米・欧の主要市場では前期並みで推移し、アジアと中南米を含むその他の地域では販売が伸びました。

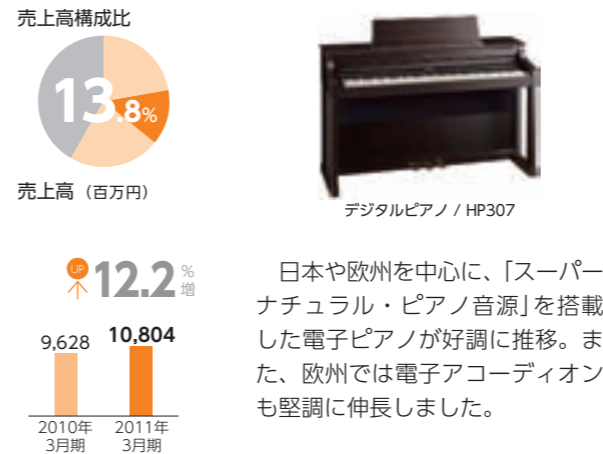
■ 電子楽器



■ ギター関連電子楽器



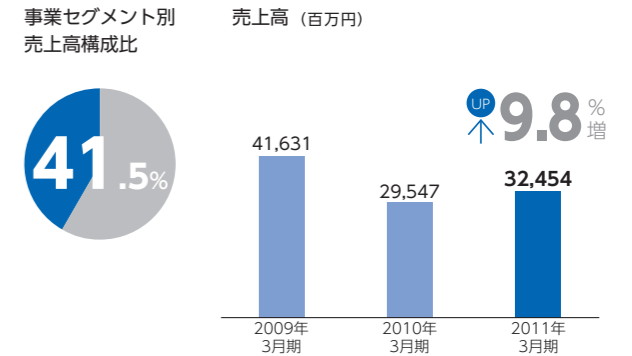
■ 家庭用電子楽器



■ 映像・音響及びコンピュータ・ミュージック機器



コンピュータ周辺機器事業



「カラー(業務用大型カラープリンター)」の分野では、メタリックカラーインクを搭載した低溶剤系大型インクジェットプリンターのラインナップ拡充により販売が好調に推移するとともに、アジア等の新興国では、低価格製品を中心に販売が大きく伸びました。「3D(3次元入出力装置)」の分野では、メタルプリンターの新製品が堅調に推移し、新規市場開拓としてデンタル市場向けに切削加工機を投入しました。



連結貸借対照表

単位：百万円

科目	当連結会計年度 2011年3月31日	前連結会計年度 2010年3月31日
資産の部		
流動資産	53,859	54,342
固定資産	25,261	27,333
有形固定資産	19,011	17,995
無形固定資産	1,250	1,642
投資その他の資産	4,999	7,695
資産合計	79,121	81,675
負債の部		
流動負債	12,238	10,516
固定負債	2,753	2,881
負債合計	14,991	13,398
純資産の部		
株主資本	54,514	55,668
資本金	9,274	9,274
資本剰余金	10,801	10,801
利益剰余金	36,207	37,360
自己株式	△ 1,767	△ 1,767
その他の包括利益累計額	△ 6,893	△ 4,338
少数株主持分	16,508	16,948
純資産合計	64,129	68,277
負債純資産合計	79,121	81,675

総資産 791億円

関係会社3社を新たに連結子会社としたこと等により、有形固定資産が10億円増加する一方で、投資その他の資産が26億円減少しました。加えて、現金及び預金が8億円減少したことで、総資産は25億円減少しました。

2010/3/31	81,675
2011/3/31	79,121

負債 149億円

生産量の増加に伴い買掛金が4億円、また業績の回復に伴い未払法人税等が6億円増加したこと等により、負債は15億円増加しました。

2010/3/31	13,398
2011/3/31	14,991

純資産 641億円

自己資本比率 60.2%

主要国通貨に対する円高により、為替換算調整勘定が23億円減少するとともに、当期純損失が6億円、剰余金の配当が5億円あったことで、純資産は41億円減少しました。

2010/3/31	68,277
2011/3/31	64,129

連結損益計算書

単位：百万円

科目	当連結会計年度 2010年4月1日から 2011年3月31日まで	前連結会計年度 2009年4月1日から 2010年3月31日まで
売上高	78,270	75,034
売上原価	46,868	46,467
売上総利益	31,401	28,566
販売費及び一般管理費	29,131	29,379
営業利益又は営業損失(△)	2,270	△ 813
営業外収益	548	1,004
営業外費用	1,909	733
経常利益又は経常損失(△)	909	△ 541
特別利益	189	102
特別損失	276	390
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	822	△ 829
法人税等	1,186	1,440
少数株主損益調整前当期純損失(△)	△ 364	—
少数株主利益又は少数株主損失(△)	330	△ 178
当期純損失(△)	△ 694	△ 2,090

営業利益 22億円

増収に加え、生産量増加により売上総利益率が38%から40%に2ポイント改善したことで、売上総利益が28億円増加、また販売費及び一般管理費の2億円減少もあり、営業利益は30億円の増益となり、黒字転換しました。

2010/3/31	△813
2011/3/31	2,270

当期純損失 6億円

円高による外貨建て資産の為替差損10億円など営業外費用の影響が大きく、遺憾ながら2期連続の当期純損失となりました。

2010/3/31	△2,090
2011/3/31	△694

連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	当連結会計年度 2010年4月1日から 2011年3月31日まで	前連結会計年度 2009年4月1日から 2010年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,662	8,555
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,744	△ 311
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 678	△ 11,088
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1,768	33
現金及び現金同等物の減少額	△ 1,529	△ 2,810
現金及び現金同等物の期首残高	20,401	23,078
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	175	133
現金及び現金同等物の期末残高	19,047	20,401

営業活動によるキャッシュ・フロー

前期はたな卸資産の削減による収入53億円等により85億円の収入があり、当期は売上・生産増による運転資金が増加する一方で、業績の改善等により26億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

金型や工具等の有形固定資産の取得等により17億円の支出となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

前期は短期借入金の返済89億円、自己株式の取得10億円等により110億円の支出があり、当期は配当金の支払等で6億円の支出となりました。

会社の概要 (2011年3月31日現在)

商号	ローランド株式会社 (Roland Corporation)
設立	1972年4月18日
資本金	9,274百万円
主な事業内容	電子楽器、電子機器及びそのソフトウェアの製造販売並びに輸出入
従業員数	3,115人(連結) 840人(単体)

役員状況 (2011年6月24日現在)

代表取締役社長	田中英一
専務取締役	西澤一郎
常務取締役	近藤公孝
取締役	柳瀬和也
取締役	池上嘉宏
取締役	木下裕史
取締役	三木純一
取締役	湯川純郎
取締役	ジョン・ブース
社外取締役	佐藤克昭
常勤監査役	河合保
常勤監査役	中村健也
社外監査役	川島実
社外監査役	前川三喜男

特別顧問	梯 郁太郎
顧問	檀 克義
会計監査人	有限責任監査法人トーマツ

事業所 (2011年3月31日現在)

本社工場	静岡県浜松市北区細江町中川 2036 番地の 1
工場	都田工場、松本工場
研究所	浜松研究所
試験センター	都田試験センター
流通センター	浜松流通センター
国内オフィス	札幌、東京、名古屋、大阪、福岡
海外オフィス	ロッテルダム
ローランド・ミュージック・スクール	札幌 / 名古屋 / 京都 / 大阪 / 広島 / 福岡 横浜 (ローランド・サテラ)

グループ各社 (国内) (2011年3月31日現在)

開発	ボス株式会社
製造	ローランド エスジー株式会社
製造販売	アトリエビジョン株式会社
製造販売	ローランド ディー・ジー・株式会社

(注) ローランド エスジー株式会社は、2011年4月1日付でローランド株式会社と吸収合併しました。

グループ各社 (海外) (2011年3月31日現在)

製造	Roland Europe S.p.A. Roland Taiwan Electronic Music Corporation Roland Electronics (Suzhou) Co., Ltd.
製造販売	Rodgers Instruments Corporation Cakewalk, Inc.
販売	Roland Corporation U.S. Roland Systems Group U.S. Roland Canada Ltd. Roland Brasil Importação, Exportação, Comércio, Representação e Serviços Ltda. Roland Corporation Australia Pty Ltd Roland (U.K.) Ltd. Roland Elektronische Musikinstrumente HmbH. Roland Central Europe N.V. Electronic Musical Instruments Roland Scandinavia A/S Roland Systems Group EMEA, S.L. Roland (Switzerland) AG Roland Italy S.p.A. Roland East Europe Ltd. Roland Music LLC Roland Taiwan Enterprise Co., Ltd. Roland Asia Pacific Sdn. Bhd. Roland (Shanghai) Logistics Co., Ltd.

(注) Roland Iberia, S.L.は、2011年1月1日付でRoland Systems Group EMEA, S.L.に社名変更しました。

発行株式数及び株主数 (2011年3月31日現在)

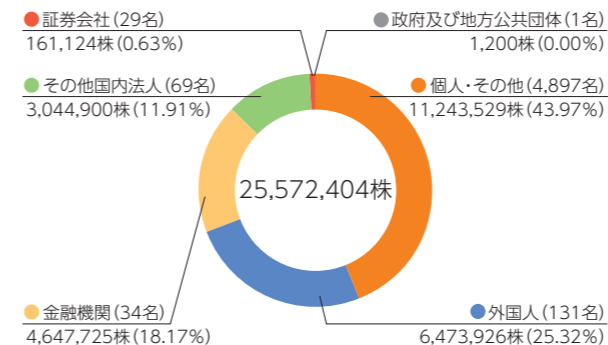
発行可能株式総数	60,000,000株
発行済株式総数	25,572,404株
自己株式数	1,784,485株
株主数	5,161名

大株主 (2011年3月31日現在)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
公益財団法人ローランド芸術文化振興財団	2,335	9.13
梯 郁太郎	1,507	5.89
タイヨウ ファンド エル ピー	1,172	4.59
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー)サブアカウント アメリカンクライアント	1,119	4.38
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	879	3.44
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	842	3.30
ローランド社員持株会	800	3.13
株式会社りそな銀行	561	2.20
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リユーエス タックス エグゼンプテッド パンション ファンズ	441	1.72
エイチエスピーシー バンク ピーエルシー マラソン ヴァーテックス ジャパン ファンド リミテッド	368	1.44

(注) 自己株式1,784,485株は大株主から除いています。

株式の分布状況 (2011年3月31日現在)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 (その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。)
上場証券取引所	東京・大阪証券取引所市場第一部
株主名簿管理人/ 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
各種お問い合わせ先	三菱UFJ信託銀行株式会社 株式事務に関するご照会 電話0120-255-100(通話料無料) [受付時間 9:00~17:00(土、日、祝祭日、年末年始を除く)] WEBサイト http://www.tr.mufig.jp/daikou/
郵便物送付先	〒541-8583 大阪市中央区北浜二丁目4番6号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
公告方法	電子公告とし、以下の当社ホームページに掲載致します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載致します。 http://www.roland.co.jp/ir/koukoku.html

●お知らせ

株主様からの株式に関するお手続きの「各種お問い合わせ先」並びに「郵便物送付先」は、2011年8月1日より次のとおり変更となりますので、お知らせ致します。

2011年8月1日以降

各種お問い合わせ先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 電話 0120-232-711 (通話料無料) [受付時間 9:00~17:00 (土、日、祝祭日、年末年始を除く)] WEBサイト http://www.tr.mufig.jp/daikou/

ローランド IRサイトのご案内

ホームページ <http://www.roland.co.jp/> (日本語サイト)
<http://www.roland.com/> (英語サイト)

IRページ <http://www.roland.co.jp/ir/> (日本語サイト)
<http://www.roland.com/ir/> (英語サイト)



ローランドホームページでは、最新のニュースリリースやIR情報を掲載しています。



IRメール配信を行っています。
ぜひ、ご登録ください。



ローランド株式会社

〒431-1304 静岡県浜松市北区細江町中川2036-1
TEL : 053-523-0230